

INTERNATIONAL EXCHANGE 国際交流

水産学部の留学プログラム

水産学部には様々な短期留学サマーコース、交換留学制度があります。これらプログラムは語学留学を目的とするものではなく、研究目的の留学プログラムです。海外での研究体験のみならず、それを足掛かりに海外の大学院に進学する学生もいます。水産学部のプログラム以外にも、自ら奨学金を得て、国際交流協定校に留学する学生もいます。また、水産学部は13か国から73人の留学生を受け入れています。交換留学で来る学生もいれば、入試を経て入学する留学生もいます。交換留学は期間が限られていますが、その後、水産科学院の大学院に進学する留学生も多くいます。

Eco-friendly fisheries for sustainable fisheries resources management in Thailand

北海道大学—東南アジア漁業開発センター訓練部局 ～生態環境保護を意識した沿岸漁業の持続的資源管理～

次世代を担うタイ国各地の水産・海洋系大学生と北大水産生を対象とし、約10日間の短期集約された期間で実施される現地研修コースです。東南アジアにおける漁業就業者は数多く、その生産量も世界有数の規模を有していますが、環境汚染や資源減少などの問題も多く抱えています。その中でASEAN10か国の漁業開発を統括する、SEAFDEC(東南アジア漁業開発センター)の訓練部局を拠点に、海洋環境・海洋生態系・タイの漁業形態などの座学、漁具や漁網の制作実習、調査船を利用した沿岸域における資源量調査漁業と海洋観測実習、近隣漁家へのアンケート調査、問題解決のためのグループワークなどを日本とタイの学生が協力しながら実施します。訓練部局に併設された宿泊施設での共同生活や協力しながらの実習は、実習学生間の距離を一気に縮め、タイの友人と親しくなる事は請け合いです。そして決して観光旅行では味わえない物が得られます。



乗船調査を終えて、皆でガッツポーズ



函館市水産物地方卸売市場の見学

Seafood supply chains in Japan and Singapore

北海道大学—シンガポール国立大学 サマーコース ～日本とシンガポールにおける水産物供給体制の比較～

本コースは、北海道大学とシンガポール国立大学の専門知識を融合し、食糧生産および水産資源についてグローバルな視点から学ぶユニークなコースです。学生は、海や養殖場から市場、そして消費者に至るまでの水産物の生産・加工・流通のプロセスを体系的に学ぶとともに、特にアジア地域における持続可能性や食料安全保障といった地球規模の課題について考察します。6週間のプログラム期間中、参加者は函館とシンガポールの両都市に滞在し、フィールドトリップや実践的な活動を通じて学びながら、異文化を直接体験します。シンガポールでは、生徒たちは食品関連の政府機関を訪問し、魚市場を見学し、すり身団子を作ります。函館では、魚市場を訪れ、魚の競りを見学し、水産加工工場を見学します。本プログラムは、単なる学習や渡航の機会にとどまらず、世界の水産業に関する実践的な理解を深め、将来の学業やキャリアに役立つスキルを身につける貴重な機会となります。



すり身ボール製造実習体験



シンガポール水産物卸売市場の見学

留学体験談

STUDY ABROAD EXPERIENCE

海洋資源科学科3年(留学時)

鎌田 菜月

学部3年生の後期にノルウェーのベルゲン大学に交換留学していました。海に面した街にあるベルゲン大学は海洋系に強いことから、2年生の時に学科長に勤めていただいたのがきっかけです。ベルゲン大学では、留学生も履修できる英語での授業が多く、学部の新歓やサークル活動の機会も十分にあります。他の留学生達と共同生活を送る環境下で、人との交流に飢えることなく、様々な国籍、年齢、バックグラウンドを持つたくさんの人と出会い、ノルウェーという国に縁ができたことは一生の財産になりました。私はこの留学を通して、自分は世界中どんな場所でも仲間や助けしてくれる人を見つけ生きていくことができるという自信ができました。交換留学において、心配事や不安は尽きません。しかし、留学したいと思った時にすぐに行動を起こして良かったと思っています。交換留学は、現地で過ごす日々だけでなく、思い立ってから実際に渡航するまでに様々な過程があり時間がかかります。挑戦しようと思った時に迷わずに突き進むことが大事です。



ラトビア・リガの聖ペテロ教会での演奏会

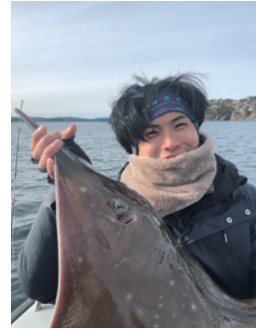
留学体験談

STUDY ABROAD EXPERIENCE

海洋生物科学科4年(寄稿時)

二通 健太

現在、北大の大学間協定を利用してノルウェーのベルゲン大学に1年間留学しています。ノルウェーに来て衝撃を受けたのは、スーパーに並ぶ魚が全く見たことのない魚だらけであったことです。ノルウェーは大西洋に面しています。そのため、太平洋では絶対に見られない魚が当たり前に見られます。シロイトダラ、クロジマナガダラ、ヨーロピアンヘイクなどが良い例です。学部卒業程度の知識を既に身に付けていたはずの私でしたが、ノルウェーに来て早々見たことのない魚を目にして、いかに自分が限られた世界しか見てこなかったのかを痛感しました。日本は太平洋に浮かぶ小さな島国です。日本ににいるということは、太平洋という物理的な制限を伴います。私は太平洋を出て初めて、自分がどんな場所にいたのかを知ることが出来ました。この留学が無ければ、私は一生気付くことはなかったでしょう。大西洋はどんな場所だろう?その好奇心が私をノルウェーへと導き、世界が思っていたより大きく広いことを教えてくれました。



Aquatic ecosystem conservation and blue economy development in Island countries in the Indian Ocean

インド洋島嶼国における水圏生態系の保全とブルーエコノミー開発

～海洋保全と経済開発の未来像～

本コースでは、水産学部の学生と、アフリカに近いインド洋の島国・モーリシャス共和国の学生をつなぎ、経済成長と海洋保全の両立を目指す「ブルーエコノミー」について学びます。本コースを通じて、学生たちは、「いかに海と一緒に暮らしていけるのか」「島国ならではの条件下でどのように経済成長をすすめられるのか」といった問いについて考えます。異なる背景を持つ仲間と経験や意見を共有し、海とともに生きる社会の課題と可能性に気づきます。モーリシャスの明るい太陽のように、学びに活気と刺激をもたらし、海の未来を主体的に考える力を育む、国際色豊かで実践的なコースです。



海をまたいだフィールドで、学んだ知識をもとに現地の人々と課題に向き合い、持続可能な未来に向けたアイデアを具体化していきます



Field courses in Hawai'i

ハワイ大学でのフィールド実習

～熱帯の海について学ぶ実習や研究体験～

上廣海洋学分野は、ハワイ大学に水産学部生や大学院生を派遣しています。現地学生と共にハワイ大学のフィールド実習を受講するプログラムやハワイ大学教員が展開している研究テーマに沿った研究体験ができる実習を提供しています。ハワイ大学で、海洋物理学や海洋生物学を学んでみませんか。



サンゴ礁生態学に関する実習に参加している様子



ハワイ大学教員と学生が海岸から滲み出る地下水を調べる地球化学的研究